

# どこでもパイプのお取り扱いについて

※ この文章は、バグパイプ作家の藺田徹さんのホームページに掲載されているヒュンメルヒェンの吹き方についてのPDFを元に、「どこでもパイプ」に応用できるように当店で改編したものです。

このたびは「ケルトの笛屋さん」のオリジナル楽器「どこでもパイプ」をお求め頂きまして、ありがとうございます。

「どこでもパイプ」はスコットランドの Scottish small pipes をもとに、「誰でも楽しめるバグパイプを！」という理念に基づいて独自のアイデアで作られた、どこにもない新しいタイプのバグパイプです。

本製品は、日本の住宅環境でも練習ができる慎ましい音量で、演奏が比較的簡単で吹きやすく、小規模の合奏に適しており、価格が手ごろで幅広いジャンルの音楽に応用できる楽器という優れた特徴を備えています。

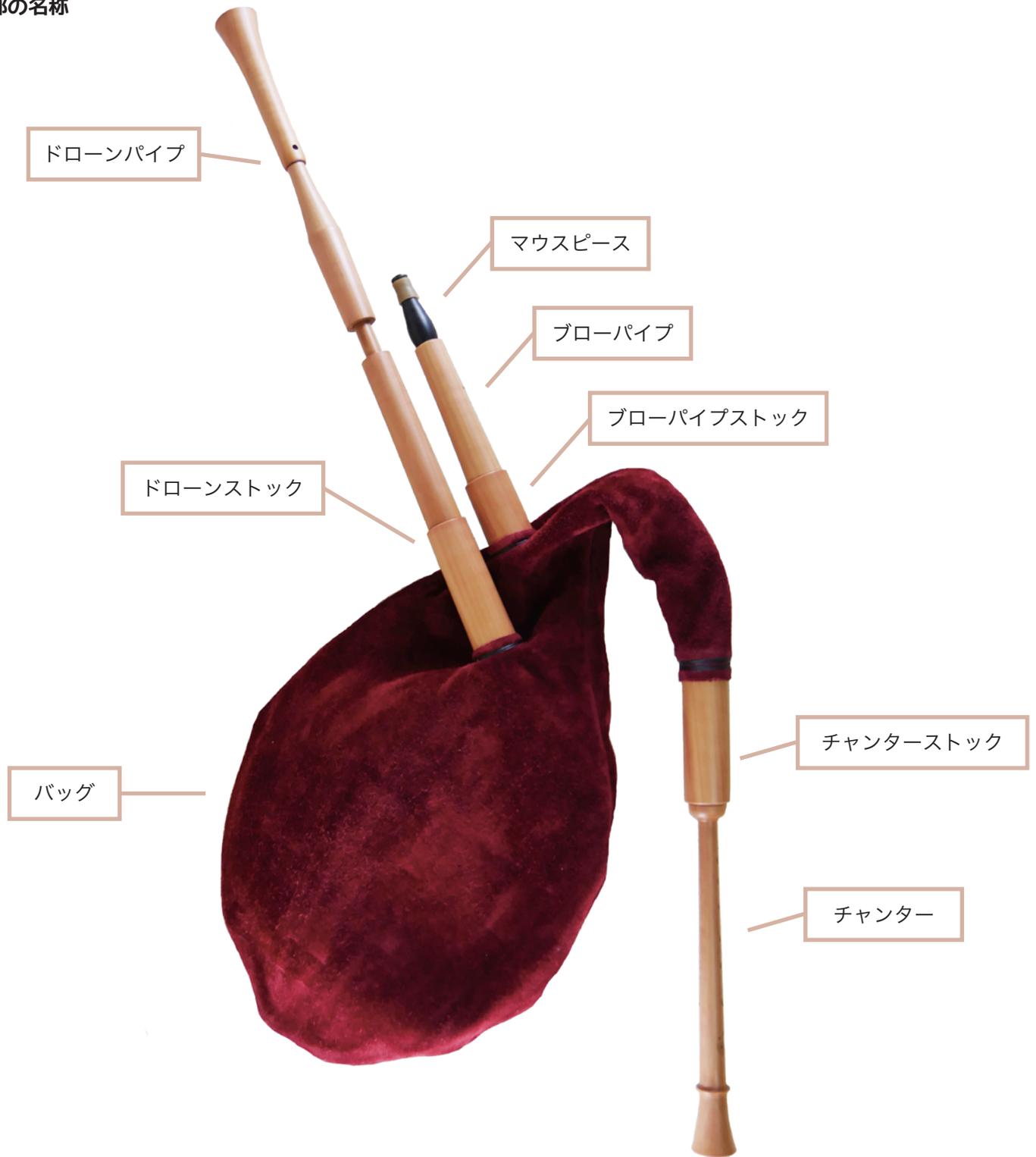
本製品の仕様は以下のとおりです。

- 口吹き式（別途ご注文頂ければふいご式のバッグに変更も可能です）
- D管（D管ティン・ホイッスルと同じ。アイリッシュで一番一般的な調です）
- 音域…ソプラノリコーダーC管の第一オクターブと同じなので、C管としての使用も可能です。
- ドローンは1本（Chanterの1オクターブ下のEとDとCを切り替え可能）
- Chanter部分がダブルリード、ドローン部分がシングルリードとなっており、スコットランドのSmall Pipesと似た音色がします。
- 音域は、1オクターブと低音のCの合計9音。
- クロス・フィンガリングによりEbを除くすべての半音が演奏可能  
※Ebは半分閉じによってなんとなく演奏可能
- リードはChanter、ドローンともにプラスチック製なのでメンテナンス要らず。
- 音量は控えめ。室内でのソロ演奏または伴奏楽器との小編成での演奏向き。  
音量の大きなセッションには向いていません。

「どこでもパイプ」はバグパイプ類に共通であるバッグの操作方法や装飾音を練習するのに最適の楽器です。もし将来的にどこか特定の地域のバグパイプを演奏したいとお考えの方にとっても、ある程度「どこでもパイプ」を吹きこなしておくと、よりスムーズに移行できるでしょう。

この楽器をきっかけに、様々なジャンルの曲を楽しんで頂くことで、皆さまの音楽ライフがより楽しくなることを願っています。

各部の名称



チャンター・リード



ドローン・リード

## <初心者の方へ>

よく「バグパイプの演奏は難しい、メンテナンスが大変だ」ということを耳にしますが、バグパイプは決して特別な楽器ではありません。しかし、誰でもすぐに音が出せる、という楽器でもありません。オーボエやクラリネット、あるいはトランペットやホルンなど、他のほとんどの楽器と同じように、うまく演奏出来るようになるには練習が必要な楽器です。ですから、初めてバグパイプを手にした日に全然音が出せなくても、がっかりすることはありません。また、バグパイプのお手入れも、他の楽器に比べてとりわけ難しいわけではなく、楽器と付き合いがながく自然と身についていくものです。このしおりでは、この楽器の演奏やメンテナンスに関する基本的な点を一通り解説してあります。これらを参考に、どうぞ根気良く練習を続けて下さい。

## 「どこでもパイプス」吹き方講座 動画公開中！

演奏方法については、動画を公開しておりますので、こちらのテキストと合わせて、動画を見ながら練習を進めてください。



[celtnofue.com/play/tutorial/howto\\_dokodemo.html](http://celtnofue.com/play/tutorial/howto_dokodemo.html)

## 演奏方法

### ● 音を出す

1. ブローパイプを口にくわえ、バッグを抱える側の手でチャンターを持ち、バッグに空気を吹き込みます。
2. ある程度バッグに空気がたまって膨らんできたら、息を吹き込みながらもう一方の手でバッグを軽く押し、わきの下に深く抱え込みます。  
ここで、音が出始めます。手で押すことを省いて、わきの下に抱え込んだ状態で圧力をかけ、音を出すことも可能です。リードの状態によっては、この圧力のかけ方によって裏返った音が出るがありますが、その場合は力を調整してみましょう。
3. チャンターの出始めの音が、ドローン音ときれいな和音を作るように、チャンターに添えた手ではA音かG音（ドローンがDのとき）ができるように指孔を押さえておくとよいでしょう。但し、必ずそうしなければならない、ということではなく、他の音から演奏を始めても構いません。
4. もう一方の手を、素早くチャンターに添え、演奏を開始します。

## ● 音を一定に保ちながら鳴らし続ける

演奏中は、ドローンが一定の高さで安定して鳴るように心がけましょう。

このためには、バッグを押さえる肘の力と、息を吹き込む強さのバランスをうまくとりながら、バッグから出て行く空気の圧力を常に一定に保つことが大切です。

コツは、吹き込む息の力だけで音を出そうとするのではなく、バッグを肘でゆっくり締めていきながら音を出す感覚にも慣れることです。

この点は、初心者が一番苦労する部分ですので、気長に練習しましょう。

バッグに息を吹き込む時は、リラックスしてゆっくりと行ないます。

息を吹きこむ間は、バッグが膨らんでいくのを軽く腕で感じながら、それに合わせて少しずつ肘を開いていくようにします。息継ぎの時には、肘をゆっくり締めていき、バッグから空気を徐々にしぼり出します。締め付けが急だったり強すぎたりすると、音が止まったり裏返ったりするので、少しずつ力を込めていきます。

これに慣れてくると、息継ぎの時間を長くしても音が途切れなくなります。

この、「ふうっ」という吹き込みと、「ぎゅっ」という締め付けを、ゆっくりしたリズムで繰り返します。ふう——っ、ぎゅ——っ、ふう——っ、ぎゅ——っ、というように、ゆっくりと長めのサイクルで行ないます。

これらの息使い、肘使いに慣れるため、最初はチャンターを抜いてチャンター・ストックをコルクなどで塞いで、ドローンだけで鳴らしてみましょう。

ドローンが楽に鳴らせるようになったら、今度はドローンストックに栓をして、チャンターだけで鳴らしましょう。最初はメロディーを奏でようとせず、チャンターの一つの音を安定して出すことに、意識を集中しましょう。

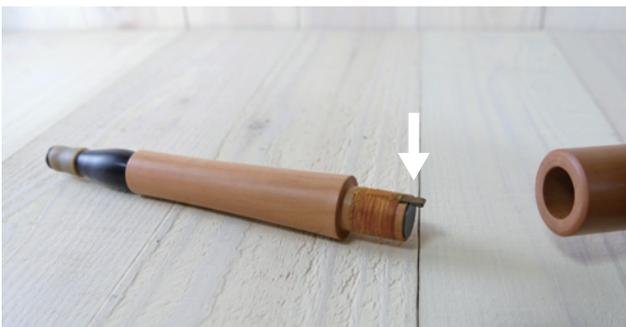
最後に、チャンターとドローンを一緒に鳴らします。ドローンの鳴らし始めに変な音が出ることはありますがすぐに安定したD音になるようなら、問題ありません。チャンターがきれいに鳴っているのに、ドローンの不安定な音が解消されない場合は、ドローン・リードを調整する必要があります（後述）。

なお、バッグからブローパイプに空気が逆流してくる場合、バルブの状態をチェックしてみましょう。

バルブの取り付け位置を調整したり、バルブの裏面、即ちブローパイプとの接触面にリップクリームを塗布してみるとよいでしょう。

また、ブローパイプをストックに差し込む時、バルブの支点の部分が上になるようにしましょう。（左写真）

これを逆にすると、バルブが開きっぱなしになり空気が戻ってきます。（右写真）



正



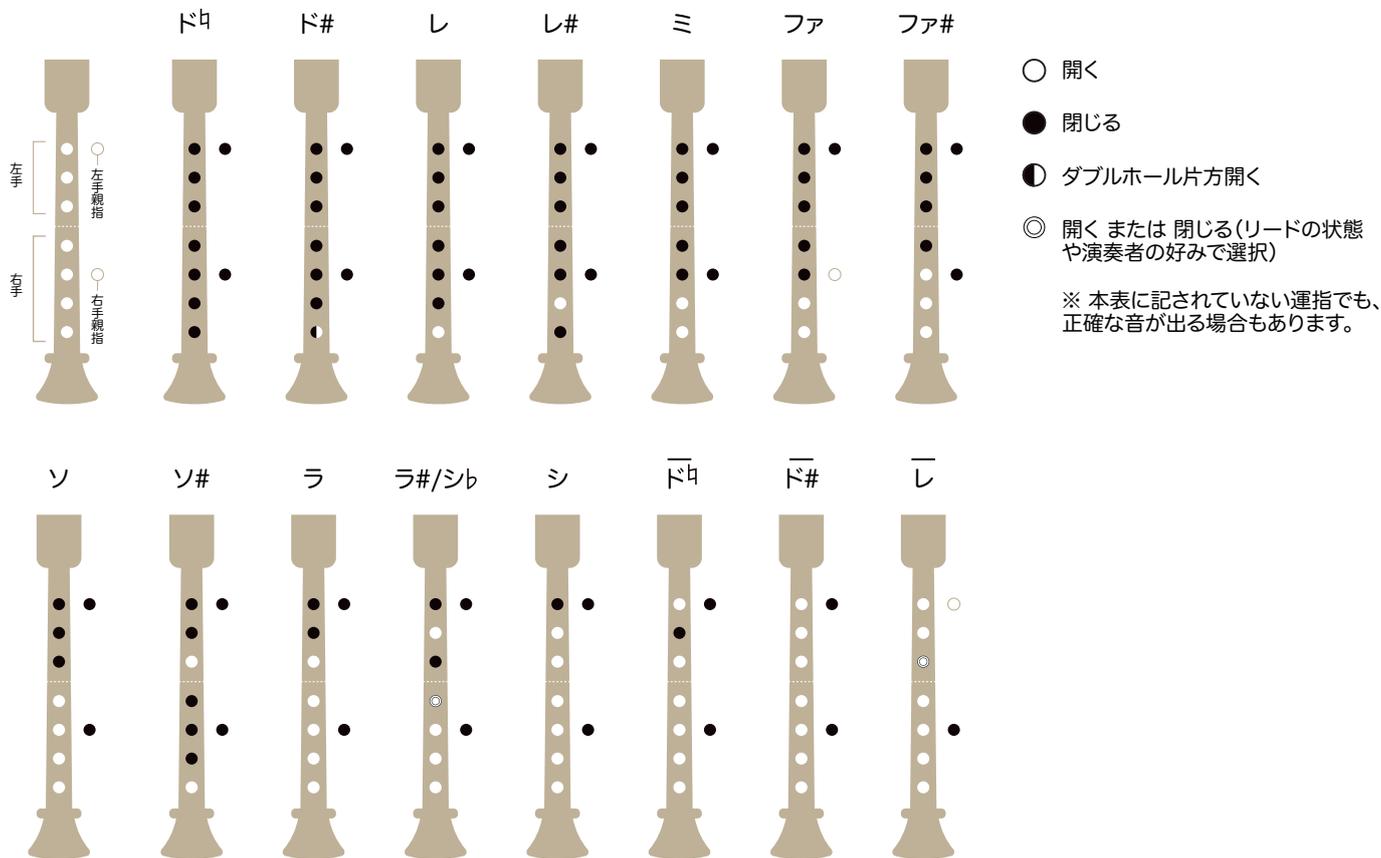
誤

## 運指と演奏

### ● 運指

「どこでもパイプ」の運指は多くの部分でD管のティン・ホイッスルと共通です。

運指表はありますが、絶対に運指表に書かれた通りの運指でなければならない、ということはありません。リードの状態などによって、他の運指のほうがきれいな音が出る場合には（特に半音）、柔軟に対応して頂いても結構です。なお、演奏中は、運指のみに気をとられることなく、ドローンとチャンターが安定して鳴るように、息と肘の力にも注意を払います。



### ● 曲に表情をつける

バグパイプではタンギングが出来ないので、連続して同じ音を出す時や、スタッカートの効果を出したい時には、前打音を使います。前打音は多くの場合、上の手のいずれかの指、又は下の手の人差し指を、一本だけ素早く開閉することで鳴らします。慣れてくると、例えば全部の指を素早く閉じてドローンと同じ音程（ドローンがDであればD音）を出し、これを前打音に使う、といったことも可能です。

こうした前打音は楽譜に書かれていないことが多いので、演奏者自身の即興で入れることが多くなります。またバグパイプでは、音量に強弱を付けることが殆どできないため、前打音のほか、極めて短い二つ以上の音から成る装飾音を入れたり、ビブラートをかけたりすることで、曲に表情をつけます。

スコットランドのバグパイプには確立された装飾音のスタイルがありますが、「どこでもパイプ」では個人の好みで好きなように入れてかまいません。ビブラートは、開いている指孔の一つか二つ下の指孔を素早く開閉することで演奏します。

### ● 休符

バグパイプの音楽では、休符はあまり一般的ではなく、曲の最初から最後まで音が鳴りっぱなしのことが多いものです。もしも休符が出てくる場合には、休符の少し手前で息を吹き込むのをやめ、休符が来るまではバッグの中にある空気を使って音を鳴らすようにします。そして休符に来たら締め付けていた肘を素早く緩めます。これによりバッグ内の圧力が急低下し、音が止まります。しかし、休符の後にまた音を出す必要があるため、バッグ内にはある程度の空気を残しておきます。休符後最初の音符に来たら、すぐに息を吹き込み、同時に肘の力も加えて音を出します。

## ● 曲の終わり

曲が終わったら、チャンターとドローンの音を同時にピタリと止めることが大切です。このためには、休符の場合と同じように、曲が終わる数小節手前で息を吹き込むのをやめます。後はバッグの中にある空気を使って演奏を続け、最後にぱっと肘の力を緩めて音を切ります。この時、バッグ内に空気が残りすぎていると、曲が終わった後も、だらだらと音が鳴り続いてしまうので、注意しましょう。

## ● 異なる調で演奏する

「どこでもパイプ」のチャンターはD調を基本的な設定としていますが、ほぼすべての半音に対応しているので、様々な調で演奏することができます。

ドローンがCの場合に向いている調… C、(Cm)、F、Fm

ドローンがDの場合に向いている調… D、Dm、G、Gm

ドローンがEの場合に向いている調… E、Em、A、Am

上記のほかにも、いつも慣れたドローンの調律を変えるだけで、新鮮な効果を生むことがあります。ドローンのチューニングについては、次の項目をご覧ください。

## チューニング

一般にバグパイプはピッチが不安定な楽器と言われます。実際、その時々気温、湿度、リードの状態等様々な要因に、ピッチが大きく左右されます。特に口吹き式のバグパイプは、常に湿度の変化にさらされるため、その傾向が顕著です。また演奏時には、構造の異なる複数のリード（チャンター・リードとドローン・リード）全てが、一定の空気圧下で正しい音を出す状態に調整しなければならないのも、初心者には苦勞する点です。慣れるまではなかなか難しいですが、楽器を正しくチューニングしておくことは良い演奏の第一歩ですので、演奏前は必ず、また必要なら演奏の間にも、チューニングを心がけるとよいでしょう。

## ● チャンターのチューニング

まずはチャンターのピッチをチェックします。まずチューナーか音叉で最初に主音（D音）のピッチを確認します。バグパイプも多くの場合A=440Hzで作られていますので、通常はこれを基準にしますが、あえてやや高め・低めのピッチを基準にしたい場合には、それに合わせて調整します。ソロで演奏するなら、各音間のバランスとドローンとのハーモニーが保たれていれば、全体的なピッチはあまり気にしなくてよい場合もあります。

全体的に音が高い場合には、リードの差し込みを浅くします。この際、必要に応じてリード下端のプラスチューブ部分に糸を巻き、リードがぐらぐらしないようにしっかり固定しましょう。音が軽すぎて高い時には、リードの口をやや開いてみましょう（下記参照）。

指でこの方向に少し力を加えると、リードが開きます。あまり力を入れすぎると、リードが破損する原因になるので、そっと慎重に行なって下さい。但し、開きすぎると、音を出すのにとても強い息が必要になり、全体のピッチも狂ってしまうので、注意しましょう。

全体的に音が低い場合には、リードをより深く差し込みます。きつくてそれ以上差し込めない場合には、リード下端の糸を少しほどいて、差し込みやすくしてやりましょう。音が大きすぎ、且つ低い場合には、リードの開きを少し狭くしてみましょう（下記参照）。

リードの針金が巻いてある部分（プラスチックリードの場合は、テフロンテープで覆われています）とそのやや上、左写真の矢印のあたりを、右写真の矢印の方向に指で軽く押しつぶすような感じで押さえると、リードが少し閉じます。しかし、あまり力を入れすぎると、リードが破損する原因となりますので、要注意です。また、閉じすぎるとリードが閉じて音が出なくなります。

次に、ドローンのチューニングをしてから（後述）、その他の音のバランスをチェックしていきます。この時、チューナーを見ながら一音一音確認しようとする、音をチューナーの表示に合わせてようとして息の強さを調節してしまいますし、厳密に言えば、多くの場合バグパイプは純正律でチューニングするのが理想なので、平均律のチューナー

に合わせて調律すると、ドローンとチャンターのピュアなハーモニーが得られません。このため、チューナーは主音のピッチを確認するためだけに使用し、あとは音階やメロディーを吹きながらドローンとチャンターのハーモニーを耳でチェックし、各音を調整していくことをお勧めします。

一部の音が高い場合には、該当する指孔の上部を、ワックスか粘着テープ（色の薄いサージカルテープなど）で、少しふさぎます。ワックスやテープで指孔をふさぐのは、見た目はよくありませんが、バグパイプ奏者の間では極めて一般的に行なわれている方法ですし、むしろチューニングに注意を払っているという証でもあるので、必要な遠慮なく行ないましょう。

一部の音が低い場合には、まず全体が低い場合にとる方法を試してみましょう。その結果、他の音が高くなりすぎる場合がありますが、それらの高すぎる音は、上述のようにワックスやテープで指孔を狭くして調整します。それでも改善せず、一部の音だけが極端に低い場合には、リードを交換してみましょう。それでも解決できない場合には、極細の棒やすりなどを使って指孔の上部を広げる方法がありますが、このような時は事前に当店又は製作者の工房までご相談下さい。

リード自体はよく鳴っているのに、チャンターに装着して吹くと音が出にくくなる、あるいは（特に）低音部のピッチが異常に低くなった、と感じたら、アーモンドオイルをチャンター内部に注ぎ込んでみて下さい。注ぎ込んだ油は指孔や反対側から流れ出すままにします。表面や指孔内部に残った油は丁寧にふき取ります（指孔に油が詰まったままにならないよう、注意しましょう）。そして、1～2日、立てかけて乾かします。これは、必要に応じて行いますが、通常は年一回程度で十分です。

問題がリードではなくチャンターに起因するなら、この処置で音質が劇的に改善する場合があります。また、ドローンパイプにも、同様のメンテナンスを施してやるといいでしょう。これは割れの防止にもなります。

## ● ドローンのチューニング

チャンターの主音のピッチが確認できたら、ドローンをチャンターの主音に合わせてみます。チャンターで主音を出し、必要に応じてチューナーでそれを確認しながら、チャンターの主音とドローンの音がぴったり合うようにします。これは、ドローン管のスライド部分を伸ばしたり縮めたりすること行ないます。左手でチャンターのGまたはAの音をおさえながら、右手で同時にドローンの長さを調節すると良いでしょう。

ドローンがきちんとチャンターの主音に合った状態で、音階やメロディーを演奏してみて、きちんと合っていない音があったら、チャンターを再度調整します。

## ● ドローンの音程の切り替え

「どこでもパイプ」のドローン管の先端パーツには、ピッチ切り替えのための孔が二つあります。先端パーツを回転させて孔を開閉することにより、ドローンの音程を切り替えることが出来るようになっています。この機能を使ってドローンの音をE、またはCに設定することが出来ます。

### E管にする

ドローンの先端パーツ（栓がぶら下げているパーツ）の付け根に近い側の孔を、内側に開いている孔と合わせることで、E管になります。

### D管にする

ドローン先端パーツの先端側の孔を、内側の孔と合わせることで、C管になります。

### C管にする

ドローン先端パーツのどちらの孔も、内側の孔と合わせないようにする（閉じる）ことで、C管となります。左手はGの指にしておくと、音程を合わせやすいでしょう。

## ● ドローンを止めてチャンターのみで演奏・練習する

ドローン先端パーツ中央にあるチューニングホールを、栓を使って閉じることで、ドローンをミュートすることができます。

まだ楽器に不慣れな時期には、ドロンの音は安定しないものです。経験不足が原因の場合は、不安定といっても、「ぶれ」の幅は緩やかで、出すべき音の周辺をゆっくり行ったり来たりするような感じになります。このようなケースでは、ドロンのリードの調整は必要なく、演奏技術が向上すれば音は安定してきます。一方で、チャンターが安定して鳴っているにも関わらず、ドロンがわずかな圧力の変化で突然変な音を出したり裏返ったりする時、又は簡単にドロンの音が止まってしまう時には、ドロンのリードを調整します。以下、ドロンのリードの調整方法をいくつかご紹介します。多くの場合、これらの方法を複数組み合わせると、もっとも良い状態を作り出します。

## ● リードのメンテナンス

各リードは発送時に調整し、チャンターとドロンにフィッティングした状態でお送りしております。チャンターは適正な空気圧で正しい音階が出るよう、チューニング済みです。ドロンは、梱包サイズの関係上、パーツを分割してお送りすることがありますが、演奏時には、これらを組み立てた後、スライド部分で長さを調節してチューニングを行います。特に初心者の方は、最初はうまく鳴らせないことが多いですが、楽器に慣れるまではリードに触れず、届いた状態で練習することをお勧めします。相当期間練習しても満足に音が出ない、またはピッチがどうしても合わないような場合には、ご相談下さい。

### リードがすぐに閉じて音が止まる場合

リードの舌（振動する部分）の根元の部分を親指で押さえ、舌とボディの間にカッターの刃を差し込んで、上向きにごく軽く力を加えてやります。これにより、舌の開き具合が大きくなり、リードが閉じにくくなります。但し、同時に音がやや低くなるので、スライドを使ってピッチを調整します。

但し、あまり開き具合を強すぎると舌が折れ曲がりすぎたり破損したりするので、注意しましょう。

音のぶれが激しく不安定な時には、リードの舌の上にワックスか文具店で売っている「ひつつき虫」をくっつけて錘（おもり）にすると、音が安定することがあります。この錘の量はごく僅かです。一般的には錘を載せれば音が低くなり、その量が多いほど、音が低くなっていきます。但し錘が多過ぎるとうまく鳴りません。

また錘を載せる位置が舌の根元に近いほど音が高めに、先端に近づければ音が低くめになります。

バグパイプを長く演奏する上で、チャンター・ドロンのいずれにおいても、多かれ少なかれリードの調整が必要になってきます。そして、バグパイプは、オーボエなどの他のリード楽器と同様、演奏者自身がリードの調整に慣れる必要がある楽器です。最初は苦勞しますが、バグパイプ奏者にとってリード調整の経験を積むことは大変重要ですので、試行錯誤を重ねながら根気よく取り組むことをお勧めします。但し、この過程でリードを壊してしまうことも多いので、予備リードを手元に置いておくことをお勧めします。

## 日々のメンテナンス

バグパイプを長期間演奏しないまま放置しておく、気付かぬうちに割れてしまったり、カビが生えたり、バッグの皮が硬くなったりすることがあるので、できるだけ定期的に演奏するようにして下さい。

演奏の後は、チャンター、ドロン、ブローパイプをストックから外し、これらのジョイント部分やストックについた水気をふき取ります。バッグ内に残っている湿った空気も、できるだけ出しておきましょう。この後、高温多湿の場所や直射日光のあたる場所を避けて保管します。

## ● リードキャップ

リードをはずして保管する場合は、柔らかな布を敷いた木箱か紙箱に入れて保管します。ドロンやチャンターに装着したまま保存する場合は、リードキャップをかぶせておきます。本楽器製作者の工房では、各管のサイズに合わせたリードキャップを製作しておりますが（左写真）、市販の塩ビ管などでも代用できます。バグパイプのリードは、オーボエなどと異なり直接口にくわえないので、大切に扱えばかなり長持ちします（使用頻度やメンテナンスの状態にもよりますが、数ヶ月から1年程度）。

糸を巻いてあるジョイントやドロンのスライドがゆるくなったら、糸を追加で巻きます。糸を多く巻きすぎると、差し込んだ時にきつすぎて差し込み先のパーツが割れたり、演奏後に湿気で糸が膨張して抜けなくなる原因になるので、注意しましょう。また、糸を巻いた部分にはコルクグリース（楽器店で購入可）を塗っておくとよいでしょう。コルクグリースの手軽な代替品として、スティック状のリップクリームも使えます。

ブローパイプに装着されているシリコン製バルブは裏側に少しリップクリームを塗ると、密着して空気の漏れが少なくなります（3 ページ参照）。

たまに木製のパーツの表面を、アーモンドオイルや亜麻仁油を含ませた布で拭くと、割れの防止になります。音質が悪くなった場合には、管の内部にアーモンドオイルを注ぎます（6 ページ参照）。

「どこでもパイプ」のバッグは革製ですが（ご希望に応じ、人工素材のバッグでも製作いたします）、定期的に演奏し、演奏後には中の湿った空気を出してやれば、その他のメンテナンスをする必要はなく長持ちします。

但し、皮革は天然のもので、長い間使っているうちに空気漏れが起こることがあります。この場合、「シーズニング (Seasoning)」という目止めのゲルを温めて液状にし、これをバッグに注いで内部全体に満遍なく行き渡らせ、余分なシーズニングを流しだして、1日ほど置いておきます。シーズニングは常温に戻ると再びゲル化し、バッグの縫い目や皮の微細な毛穴等をふさぐ役割をします。

シーズニングは別売りでお買い求めいただけますが、スコットランドのハイランドパイプス用に市販されているので、ご自身でインターネット等を通じて簡単に購入できます。

バッグの空気漏れがシーズニングでも改善しない場合、あるいは保管状態が悪く悪臭を放つようになったバッグは交換します。バッグの交換については、ご相談下さい。

以下のものは当店でお買い求め頂けます。

- ・ 曲集
- ・ チャンター・リード
- ・ ドローン・リード
- ・ チャンター用リードキャップ
- ・ ドローン用リードキャップ
- ・ ジョイント/スライド用の糸
- ・ ビーワックス（蜜蝋）
- ・ ブローパイプ・バルブ
- ・ バッグ
- ・ シーズニング

## ● 拡張機能について

「どこでもパイプ」は各国バグパイプに特化したチャンターやドローンに差し替えて、別のバグパイプとして楽しむことができます。例えば、

- ・ スコティッシュ運指 D 管チャンター\*
- ・ スコティッシュ運指 A 管チャンター&ドローンのセット
- ・ ドローンセット
- ・ ガイタ運指 D 管チャンター（音域は low C# から high D まで）\*
- ・ セックピーパ A/E 管、及び G/D 管チャンター&ドローンのセット
- ・ ヒュンメルヒェン C/d-minor 管チャンター（ソプラノ）\*
- ・ ヒュンメルヒェン A/g-minor 管チャンター（アルト又はソプラニーノ）
- ・ ドローンセット 等

(\* 印のついたチャンターでは、基本モデルのドローンがそのままご使用頂けます)

これらのアタッチメント（ご注文による別売）に差し替えれば、例えば一本ドローンのスモールパイプスや室内練習用のミニガイタとして、あるいはセックピーパやヒュンメルヒェンはそのものとしての使用も可能になります。

